

# この本と私

読むほど、気付くほど  
書くほど、判るほどがある

## 「人間の器量」

福田和也著

本書では、大学教授である著者が、世間の人の価値尺度が、偏差値や学歴、収入の高低などに囚われていることに疑問をもち、包容力や感受性をもって人を見ようと訴えています。大学や社会において、何らかに秀でた能力や大きな度量を持った人として、過去の傑物34人を例に挙げています。

作家の山本周五郎は取材以外の活動は全く行わず、友人の葬式にも出なかつたそうです。同時代の作家に強いライバル心を抱き、吉川英治が選考委員をしていたことから直木賞を辞退しています。原稿料は、作家の収入ではなく、出版社、読者の投資であつて、貯金したり家を建てることは横領と言いきっています。執筆前は編集者を料亭に招き、あり金を使い切り、背水の陣に立って書いていました。

伊藤博文は大日本帝国憲法の起草者です。骨子は井上馨や他の学者らで作り上げたのですが、発布には明治天皇の承認が必要です。天皇陛下ご自身は、富国強兵策が絶対に必要と考えておられ、伊藤の政策に疑問をもっておられ、審議に参加されないことがありました。伊藤は、陛下が幼少時から過ごした宮中の藤波言忠を説明役にあて、真意を伝える事で承認を頂き、発布にこぎつけたとのこと。その一方で、伊藤は女性関係について政府に批判的な新聞でたびたび暴露されています。今の時代なら更迭されて当然のような事をしていたのですが、面倒見が良く、花柳界の評判はよかつたようです。極端な人々を挙げましたが、大事をなした人の生き様の側面を知ること、人に対する興味と、人を見る度量が持てるようになるかもしれません。

新潮社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞